

看取りケア 第1回～看取りとは～

<学習力を高める方法>

この資料はビデオの内容に沿っています。

学びを深めるためには、単に聞くだけでなく、その時に気づいた点、感じたりした点を一言メモで書き込みながら学びを進めましょう。記憶に残りやすく、感性が育ちます。

導入：介護現場における看取り

- 介護の現場では、利用者の「最期のとき」を看取りケアとして経験するだろう
- 高齢者が最期を迎える場所
 - 多くは病院などの医療機関
 - 近年は在宅での看取りを希望する人
 - 看取りを行う施設が増えている

目的：看取りケアを学ぶ目的

- 終末期に入った利用者が
 - 施設で安らかに過ごすために私たちは何をすればよいのか
 - 介護職員が不安なくケアできるように
 - 利用者・家族が心穏やかに最期を迎えられるように

CHAPTER1：看取りとは…

- 終末期の人に行う介護・看護
 - 基本的な考え方
 - 延命治療は行わない
 - 痛みや不快感の緩和
 - 心のケアが中心
 - 目的
 - 本人らしさを失わず
 - 穏やかに最期のときを迎えていただくためのサポート
 - 生き物は
 - 生まれいずれ死んでいく
 - 生まれること・死ぬことは選択できない
 - それまでの人生の過ごし方は選択できる
 - 職員に求められる姿勢
 - 感情的になるだけでなく「どのように最期を迎えたいか」を考える
-

CHAPTER2：看取りの現状

- 厚生労働省の統計
 - 約40年前約8割が自宅で死亡、現在約8割が病院で死亡
 - 近年の意識変化
 - 「最期を迎えたい場所」は住み慣れた「自宅」を希望する人が増加
 - 延命治療について
 - 「自然に任せてほしい」と望む人が増加、2012年には9割超
 - 自宅での看取りもじゃ
 - 訪問介護、訪問看護、在宅診療のそれぞれの連携が必要
 - 施設での看取り
 - 自宅と同じように、本人・家族が安心できる環境づくりが重要
-

CHAPTER3：「老衰」とは…

- 老衰
 - 老いて心身が衰えること
- 老衰死
 - 死因と特定できる病気がない、加齢に伴い自然に生を終える
 - 病気が直接の死因でない
- 自然な死とは
 - 余計な治療をしない
- 無理なく死んでいくこと
- 人は生きるために「食べる」
 - 亡くなる前には、以前と同じようには食べられなくなる
 - 体は楽に逝くため、体内の水分を減らそうとする
- 眠る時間が徐々に長くなる
- 残っている生命力に添う
- 看取りケアは
 - 特別なものではない、日常生活の延長線上にある
- 介護施設という生活の場で
 - どのようなケアが望ましいか、人生の最期のステージを考える大切さ
- 職員としての心の準備
 - 死が尊いものとして受け入れられること
 - 最期の時の心の変化、体の変化の変化の理解が大切
- 「死のプロセス」を学ぶ必要がある